

## 【草花の部屋】

ホトケノザ (シソ科オドリコソウ属 *Lamium amplexicaule*)

**和名**：ホトケノザ(仏の座) **別名**：サンガイグサ(三階草) **英名**：henbit

シソ目 一年草 **原産地**：ユーラシア大陸

**花言葉**：調和、輝く心 **花色**：桃、紫



← 写真-1 ホトケノザ

撮影日：2021年2月23日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-2、3 ホトケノザの花

撮影日：2021年2月23日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



大和郡山市郊外の家庭菜園で見かけました。本種はホトケノザ(仏の座)と言っても、春の七草に数えられる「仏の座」とは異なり、道端や田畑の畦などによく見られる雑草です。

ホトケノザは、その葉の形が仏様の台座(蓮座)のように見えるというのが名前の由来だそうです。

成長した際の高さは10cm~30cm。四角断面の茎は柔らかく、下部で枝分かれして先は直立します。葉は対生で縁に鈍い鋸歯があり、下部では葉枝を持つ円形、上部では葉枝はなく茎を抱きます。また、葉が段状に付くところから3階建ての屋根に見立てて、サンガイクサ(三階草)という別名を持っています。

3月~6月に、上部の葉脇に長さ2cmほどの紫で唇形状の花をつけます。上唇はかぶと状で短毛がびっしり生え、下唇は2裂し、濃い紅色の斑点があります。幾つかの花が同じ場所から咲きますが、咲かずに終わる花もあります。咲く花は開放花と呼ばれるのに対し、咲かない花は閉鎖花と呼ばれます。

一見、閉鎖花は欠陥のある花のように思ってしまうますが、実は受粉して種を作ります。開放花はミツバチなどの働きによって他の株と受粉しますが、閉鎖花はほとんどそのまま親の遺伝子を受け継ぐことになるそうです。さまざまな遺伝子を持っていた方が環境に適応できる確率が上がりますが、環境の変化がない場合は、順調に生き残った親の遺伝子をそのまま受け継ぐ方が、ほぼ確実に子孫を残すことができるそうです。

ホトケノザの種にはエライオソームという物質が付着しているものがあります。このエライオソームの主成分は脂肪酸や糖、アミノ酸などで、これによってアリを呼び寄せ、巣まで持ち帰ってもらうことでタネをより広範囲にばらまいていると言われています。このようなアリを利用してタネによる繁殖を行うものをアリ散布植物と言い、ホトケノザ以外にもオオイヌノフグリやスミレなどがこれに含まれています。シロバナホトケノザ(白花仏の座:f. albiflorum)と呼ばれる白い花をつけるものもあるそうです。

<ちょっと一言>

\*春の七草のホトケノザの正式な名前はコオニタビラコ(小鬼田平子:キク科ヤブタビラコ属 *Lapsana apogonoides* Maxim)